



## 『ふくしまキッズ夏季林間学校・2011』

主催：福島の子どもを守ろうプログラム実行委員会

協力：NPO あふくまエスエネット・NPO 教育支援協会・NPO 教育支援協会北海道・NPO おおす・NPO スタニティ・NPO 自然体験活動部・NPO 大沼・駒ヶ岳ふるさとづくりセンター・NPO 放課後アフタースクール・NPO 法人参職人・北海道・北海道教育委員会・十勝圏・北海道教育大学・北海道公民館協会

詳しくはサイトをご参照ください。

<http://fukushima-kids.org/>

### ■子どもたちを、子どもに戻すために

地震と地震による原発事故があつてから、福島の子どもたちは放射能のために屋外で遊ぶこともままならない生活を送っています。子どもたちは親ごさんの苦勞をわかつていて、みんなとてもいい子にしているそうです。子どもたちに、せめて夏休みにのびのびと子どもに戻って大自然のなかで遊んでもらいたい、そういう大人の願いからこのプロジェクトが始まりました。夏季林間学校の試みは、阪神淡路大震災のときも行われました。今回はあまりにも被害が大きい災害だったゆえ、なかなか支援の手が「遊び」にまで及びません。

でも、なんとか、この夏休みをできる限り自由に遊んでほしい。社会が自分たちに無関心ではないことを感じてほしいと願い、教育に関わるNPOのメンバーがこのプロジェクトを進めてきました。

### ■いま、体験することの意味

林間学校は子どもの身の安全を預かる難しいプロジェクトですが、北海道の自然体験をサポートしているNPOの方々の全面的な協力があって実現しました。たくさんの方々が関わり、やっとサイトを立ち上げるところまできた……というのが現状です。なにしろ、まだ事故から三ヶ月ですから……。

なぜ急ぐのか。この大災害のまっただ中で何を体験するか？は、子どもたちの成長にとっても大きな影響を与えると考えるからです。このたいへんな時だからこそ、自然体験学習を通してさまざまな人たちと出会ってほしい。そう思うのです。それがきっと成長の糧になるに違いない、と。